

令和2年度北本市立中丸小学校 自己評価及び学校運営協議会委員評価書(まとめ)

評価項目	No.	観 点	自己評価		学校運営協議会委員評価		
			A+B /全体 (%)	自己評価についての説明及び来年度に向けての改善策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	学校の取組に関する評価と今後の改善点等
組織運営	1	本校は、学校教育目標の具現化に向けて、教育課程の編成、指導計画の作成等を工夫している。	100	○道徳の指導書不足について ・道徳の指導書に関しては、市教委から来年度各学年1冊ずつ配布されることを確認した。全クラス配付となるよう、引き続き要望する。 ○授業中の児童対応や不登校の児童への関わりについて ・授業中に生徒指導上の問題が発生した場合は、各階のインターフォンで職員室へ連絡し、職員室にいる職員で対応する。対応後も報告・連絡・相談・見届けをしっかりと行い、学年・学校として組織的な対応を行う。 ○会議内容の精選について ・生徒指導委員会とカエル会議は、同時進行で行う(カエル会議は2ヶ月に1回)。倫理確立委員会は長期休業中に全教職員で研修を行う他、職員会議や職員集会の中で、不祥事防止資料や情報提供等を行うことで、不祥事防止を徹底する。 ・教科部会の時間がとれないことが多かった。来年度は金曜日に教科部会の時間を設定する方向で検討していく。	A	A	・自己評価、改善策ともに適切で評価できる。 ・生徒指導上の問題解決については、組織的に対応しており適切である。マニュアルに基づく普段の備えが大切と思われる。生徒指導委員会やカエル会議等を通して、業務改善に取り組まれていることは大変評価できる。
	2	教職員は、PDCAサイクルのもと学級・学年経営や教科指導、校務分掌に工夫・改善しながらあたっている。	100		A	A	
	3	本校は、事故やトラブル等に対してのマニュアルを作成・掲示・活用し、組織的に、かつ迅速に対応している。	100		A	A	
	4	本校は、すべての教育活動を通じて、教職員の共通理解のもと、組織的に生徒指導にあたっている。	100		A	A	
基礎学力の徹底	5	児童生徒は、授業中、落ち着いて、学習内容を理解しようとする姿勢が見られる。	96	○業前活動の時間の使い方について ・元気タイムや読書タイム、学年朝会その他、クラス裁量で基礎的な学力を高めたり、生活指導をしたりするための『クラスの時間』を創設する。 ○学習支援員の配置について ・学力向上支援員は、現在低学年の学習に主に当たっているが、1学期と2、3学期で担当する時間を見直し、高学年の学習指導にも当たられるようにする。算数に限らず、前担任からの引継ぎをもとに支援が必要な児童のいるクラスに配置する方向で変更していく。	A	A	・自己評価、改善策ともに適切で評価できる。 ・家庭学習については、学校と家庭が連携し、習慣化するまで指導の継続が必要と思う。宿題未提出者の家庭には、具体的にどのように働きかけるのか知りたい。 ・生徒指導にあたっては、教職員の共通理解のもとに組織的に初期対応にあたり評価できる。
	6	教員は、学力の向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて日々の授業改善に努めている。	100		A	A	
	7	基礎学力の定着や授業規律の徹底など、教職員の共通理解のもと学習指導にあたっている。	100	○家庭学習について ・中丸小としての宿題の方針、未提出者への対応などについて共通理解を図り、次年度当初に保護者へ周知する。	A	A	
	8	教職員は、児童生徒に家庭学習を定着させるために、家庭に積極的に働きかけるなど工夫している。	88		A	A	
規律ある態度の育成	9	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。	74	○あいさつについて ・気持ちのよいあいさつができるように、月に一度あいさつ強化日を設定し、下記の取組を行う。 ①毎月の最初の登校日を、あいさつ強化日とする。 ②あいさつカードを活用し、挨拶の回数や仕方について自己チェックさせる。 ③あいさつカードは毎月担任が回収し、翌日に全体で一言コメントする。 ④一年間の取り組みを自分で確認し、伸びが分かるようにする。 ・あいさつ応援団を募集し、保護者や地域の方にも協力を求める。	A	B	・自己評価、改善策ともに適切で評価できる。 ・あいさつの励行については、「あいさつ強化日」を設定して取り組む姿勢を大いに評価し、地域としても明るく安心な地域社会づくりに努めたい。道徳の授業を通してあいさつの意味を理解する事も必要と思う。 ・あいさつは子ども達だけではできないので、やはり親にも問題がある。懇談会などでも親に向けて話していただけると良い。 ・あいさつについては、日常学校又は家庭において目標を設定し一歩一歩段階的に到達度に達する様に訓練する。それに根本的観点から率先垂範の人「父兄、先生、地域の人、通学班班長」等が先頭に立って牽引することによって必然的に少しずつレベルアップし、効果が段階的に向上する。特に通学班班長は何かの方法で特訓が必要かと感じられる。 ・校内中の学校運営協議会委員も兼任しているが、やはり「あいさつ」に関する評価は低い。小学校から習慣づけるのが大切だと思う。そのためにはまず家庭から。例えばあいさつカードに保護者欄を作り、親が自分自身のあいさつをチェックする、子どもが親のあいさつをチェックするなど家庭を巻き込み、ゲーム感覚で取り組んではどうか？それにより、親子のコミュニケーションが深くなったり、教職員がその児童の親子関係や家庭生活を把握できる手段のひとつになるのではないかと。
	10	児童生徒は、各学年の発達段階に応じた場に応じた正しい言葉遣いができる。	88		A	A	
	11	児童生徒は、お互いのよさや努力等を認め合って学校生活を送っている。	100		A	A	
	12	教職員は、すべての教育活動を通じて、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	100		A	A	
健康・体力	13	児童生徒は、体力の向上に向け、学校生活全般で運動や体づくりに意欲的に取り組んでいる。	88	○運動教室の実施について ・今年度は、コロナウイルス感染症対策のため、実施できなかったが、来年度は「ボール投げ教室」の他に、「鉄棒教室」や「なわとび教室」などができるか検討していく。 ○職員作業について ・職員作業の時間を確保し、下記について改善を図る。 ①Bグラウンドのバスケットボールコートとドッジボールコートの補修 ②体育小屋のテントをステージ下のスペースへ移動 ③踏み切り板の購入またはやすり等で研磨 ④避難経路の清掃 ○日課表の変更について ・児童の健康面に配慮し、元気タイムの実施曜日を検討する。 ○児童の安全意識の向上について ・廊下や階段の歩行、下校時のルールの徹底を啓発していく。	A	A	・自己評価、改善策ともに適切で評価できる。 ・コロナ禍においても実施できる体づくりにも取り組んでいただきたい。 ・しばらくはマスク着用の学校生活が予想される。具体的な真夏の対策が表記された方が安心できるのでは。
	14	本校は、児童生徒の健康及び安全についての意識を高めようと努力している。	100		A	A	
保護者・地域・異校種間連携	15	本校の教職員は、PTA活動や地域活動等に積極的に協力している。		○通学班編成について ・通学班編成を学校で設定し、通学班編成会議の際に地区役員の方々に来校いただき、相談に乗っていただく。 ○異校種連携について ・今後も、KISEP(小高連携事業)をはじめ、幼保小連絡会、きたもと幼稚園との交流など、異校種連携に積極的に取り組んでいく。 ○登下校指導について 定期的な登校指導や下校指導を今後も継続していく。			・自己評価、改善策ともに適切で評価できる。 ・通学班編成会議に地域役員の参加は学校と地域の連携や協働に大変有意義である。 ・宮内中だけではなく、東中との交流事業も今後期待する。 ・校長室だよりを多数発行し、広報している。
	16	本校は、各種たよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。	96		A	A	
	17	本校は、保護者や地域と連携し不審者対策のパトロールや声かけ運動などの計画を立てて定期的に実施している。	100		A	A	
	18	本校は、異校種間(幼保小、中高等)の連携を積極的に推進している。	100		A	A	

学校独自の項目	1	自校は、研修体制が明確で、研修が計画的に行われている。	96	○研修の実施時間について ・木曜日は平日課6時間のため下校指導を考えると3:15の開始時刻は難しい面がある。時間を変更するなどして研修時間が確保できるように検討中である。 ○学校課題研修について ・コロナウイルス感染症対策等で実施できなかったことが多かった。年間行事計画を見直し、計画的に実施できるようにしていく。	A	A	・自己評価及び改善策ともに適切で評価できる。 ・研修や会議を通して創意工夫に努め、積極的に業務を改善し、効率化、能率化を図っていることは大いに評価できる。 ・働き方改革を意識し、カエル会議を行い、カエル通信を発行した。 ・ペーパーレスが進むと良いのでは。この評価書などもメールでやりとりしたい。	
	2	自校は、研修授業、教材研究、指導方法に関する研修等を適切に行い、教職員が意欲的に参加している。	96	○目指す児童の具体化について ・研修の回数も少なく、全体での共通理解を図って研修を進めることが難しかった。2月15日に予定している授業研究では、視点を絞って参観し協議することで、目指す児童像を具体化する糸口となると考えられる。今後は、学年間で授業についての情報交換を日常的に行っていきたい。	A	A		
	3	自校は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「わかる、できる、楽しい算数の授業」に向けた授業改善に取り組んでいる。	96	○働き方改革について ・今年度からカエル会議を隔月で実施し、教員の負担感の軽減のための取組について検討、実践を行い、前年度に比べ、在校時間の削減が図れた。	A	A		
	4	自校は、「働き方改革」に向けた業務改善をすすめている。	85	○来年度もカエル会議を行い、下記の内容について検討を図る。 ①業務の効率化について ②学校行事の精選について ○業務の効率化について ・国が打ち出した「脱ハンコ化」に基づき、保護者等に求める押印の見直し及び学校・保護者等間における連絡手段のデジタル化の推進を図れるように検討中である。	A	A		
	5	自校は、むし歯の治療勧告を受けた児童への指導など、歯科保健指導を積極的に行っている。	100	○保健指導について ・コロナ禍のため自宅で過ごす時間が増えたことで、「肥満」や「視力低下」の児童の割合が増加してしまった。家での過ごし方や食事量等を懇談会や個人面談で周知していく。	A	A		・個人面談で養護教諭からの意見や指導の通知を渡せると良いと思います。
	6	自校は、校内支援体制を整備している。	100	○特別支援教育への理解について ・「特別支援教育(学級)」に対する理解を深めるために、学校だよりなどで保護者に知らせるようにする。 ○校内支援体制について ・特別支援学級の担任が、支援の必要な児童の行動観察を行う機会を設定する。WISCを受けた児童の変容を客観的に見届ける。	A	A		・学校の取組は概ね良好と思われる。
	7	自校は(なかよし学級以外にも)個別の支援を必要とする児童への対応を適切に行っている。	100	・引き続き、支援の必要な児童は弾力的運用にて、特別支援学級で受け入れていく。	A	A		
来年度の重点目標(共通項目・学校独自項目の評価結果を踏まえて)				学校運営協議会の総評				
○家庭や地域も巻き込みながら粘り強く指導し、気持ちのよいあいさつができる児童を育てる。 ○教科指導・生徒指導ともに、学年・学校としての組織的な対応を一層推進する。 ○宮内中学校区における小中一貫教育をはじめ、各種研修を推進し、教師の指導力向上とともに児童の「たくましく生きる力」を育成する。				・保護者アンケートや教職員自己評価を実施するなど、評価が適切に行われている。課題の解決に向けて積極的に取り組み、改善に向けての努力がうかがえる。今後は経年比較もできるとさらによいと思われる。また、あいさつ強化日の設定に合わせ、学校、家庭、地域社会が一体となって意識の向上に努めたい。 ・保護者アンケートの結果でNo.5とNo.12の評価が低いことが少し気になる。どうしてなのか。今後も教職員で共通理解を図り、検証していかれる事を期待する。				

北本市立中丸小学校 学校運営協議会委員(敬称略)	学校運営協議会実施日
会長 山口 修	委員 酒井 都子
副会長 牛山 武彦	委員 柏瀬 茂夫
委員 萩原 綱夫	委員 竹内 英夫
委員 大竹 郷美	委員 金室 紀夫
	第1回 令和2年7月6日(月)
	第2回 令和2年10月28日(水)
	第3回 令和2年12月18日(金)
	第4回 令和3年2月16日(火)→中止(紙面による報告・協議)

＊「自己評価の適切さ」について

A;適切な評価である B;ほぼ適切な評価である C;やや不適切な評価である D;不適切な評価である

＊「改善に向けた取組の適切さ」について

A;十分な効果が期待できる B;ほぼ十分な効果が期待できる  
C;あまり効果が期待できない D;効果が期待できず改善を要する

＊学校の取組に関する評価と今後の改善点等について

- ・評価項目ごとの取組状況に対する評価や今後に向けての要望等を記入する。
- ・自己評価書の項目を網羅的に評価するのではなく、「自己評価の高かった(低かった)項目」や「今年度の重点的な取組」に絞って記入する。

＊その他全体的な留意点

- ・学校運営協議会評価書は1枚にまとめる必要はありません。(2枚以上可)
- ・共通項目と学校独自の項目を別様に作成してもかまいません。
- ・学校独自の評価項目、評価項目数は、各学校で決めてください。
- ・学校運営協議会の総評欄は、共通項目、学校独自の項目の両方を踏まえての総評を記入してください。